



自噴するほどの水量に恵まれた役犬原地区。(写真:ポケットパーク湧水)

今月のよかとこ阿蘇市では、清らかな阿蘇の水について、ご紹介します。

九州の水がめ

阿蘇地域には年間約3,000mmもの雨が降っています。福岡や鹿児島で年間約1,000mmですので、かなり多くの雨が、阿蘇の山々や台地に降り注いでいることになります。

その雨水は、阿蘇の山々や草原に浸み込み、浄化を繰り返しながら、いつしか地下水としてあちらこちらから湧き出し、九州各県の河川に流れ出ています。



美しさで知られる宮川(手野地区)

これが、阿蘇が「九州の水がめ」と言われる由縁です。

阿蘇地域を源流とする河川は、白川、緑川、大野川、五ヶ瀬川、菊池川、筑後川で、その流域の方々の生活や農業用水に活かされています。

後世に残したい 源流の清らかさ

阿蘇山と周辺地域(郡内)で湧水箇所は少なくとも1,500ヶ所以上確認されています。

具体的に、阿蘇市内においては、阿蘇ホテルの会(湯浅陸雄会長)が10年ほど前から特に湧水箇所が多い、北外輪山内側を調査されており、その結果によると、北坂梨から赤水の間(20キロ)に、湧く流れ水の箇所を、88ヶ所、確認されています。

そのうちの26ヶ所を、阿蘇保健所などの協力を得て、水質検査を行ったところ、最高の水準だったそうで、「現地で一つ一つ見た水脈の見事さには感動した」と検査の時の様子を語られます。

生物の生息環境もよく、カワエビ、ヨシノボリ、フナ、ミズクリセイベイなどの生息が確認されています。



家の庭先に設けられた水場



▲水量が多い集落では、自宅の台所や庭先に蛇口がない光景が！なんと常時流れ出ています。集落は澄んだ小川に囲まれ、川魚の泳ぐ、湧水のまちらしい風情を醸し出しています。
(取材協力：中通地区の井手ミツ子さん)

阿蘇市民の生活用水は、もちろん地下水や湧き水。冷たくておいしいと評判です。取材に行くとき「我が家は山ん水たい！」と行く先々で言われます。それもそのはず、阿蘇市の生活用水の事情をのぞいてみると、集落近くに水源があるところが多く、簡易水道や集落管理の水道を利用している地域は、全体の4割にも及びます。外輪山の麓の地域はほとんどです。

全体の6割の上水道にしても、内牧地区は下り山水源、黒川地区は的の石の殿塚水源、宮地地区は古城の土井・平井水源と宮地3ヶ所の水源から供給されており、阿蘇市は恵まれた水環境であることがわかります。

「我が家ん水は山ん水たい！
うまかるが」と笑顔。
私たちの生活と水とは…。

くまもとホタルの里
100選にも選ばれている湧水の里「車帰」



湧水が自由に汲める湧水スポット紹介！



手野の名水 (古城)



阿蘇神社 (宮地)



西役犬原水辺公園 (霜神社そば)



福の神地蔵水汲み処 (内牧)

(次ページに続きます)

湧水が自由に汲める湧水スポット紹介！



はやたか
隼鷹天満宮の湧水池
(的石)

みずき
「水基巡りの道」
(阿蘇一の宮門前町会)



阿蘇神社周辺の商店街には個性的な水基が24基もあり、観光客の目を楽しませ、人気スポットとなっています。



参勤交代で大名たちが名水庭園として親しんだ「的石御茶屋」につながる湧水池。水が湧き出る様子がみえます。まもとホタルの里にも選定。

参勤交代で大名たちが名水庭園として親しんだ「的石御茶屋」につながる湧水池。水が湧き出る様子がみえます。まもとホタルの里にも選定。

「ポケットパーク湧水」
(NPO法人阿蘇ヒューマン21の会)



役犬原地区

『熊本県平成の水百選』に阿蘇市から2ヶ所が認定！

熊本県平成の水百選に、宮地の「水基巡りの道」(阿蘇一の宮門前町会)と、役犬原の「ポケットパーク湧水」(NPO法人阿蘇ヒューマン21の会)の2ヶ所が認定され、7月21日に認定証交付式が行われました。熊本県平成の水百選とは、地域を代表する清澄な水源の中から、地域の住民等が自主的・持続的に水環境の保全活動に取り組んでいるものが選定されます。



▲認定証の交付を受けた阿蘇一の宮門前町会 会長桑島元博氏(左)とNPO法人阿蘇ヒューマン21の会 理事長國武誠氏(右)

「水基巡りの道」では、古くから生活水として利用していた資源を、観光客に味わってもらいたいとまちづくりの一環として整備し、植樹や清掃等の保全活動を地域で行っていることが高く評価。

また「ポケットパーク湧水」は、農業用水にも使用できる水量を持ち、地域の憩いの場として阿蘇市内外から採水に来られるほど認知度が高いことが評価されました。